



週報

Rotary
OITA JOSAI, 2720



会長 衛藤祐介
幹事 中山省悟

国際ロータリー会長
ゴードン R. マッキナリー
第 2720 地区ガバナー
膳所 和彦
大分第 4G ガバナー補佐
吉良 昌一



世界で希望を生み出そう

大分城西ロータリークラブ

クラブ スローガン「委員会の活性化」

地区スローガン

ロータリーは学び舎であり、また遊び場である
そして今、ロータリーアクションは世界を変える。

<四つのテスト> 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

出席報告	10月25日					10月4日				
	会員総数	出席者数	出席率	ゲスト	ビジター	会員総数	出席者数	補欠数	修正出席率	
	32名	24名	75.0%	5名	0名	32名	25名	1名	81.3%	

編集担当

11月 松田尚美
12月 村上智貴
1月 中山省悟

例会日 水曜日 12:30~13:30 事務局 〒870-0021 大分市府内町トキハ会館 4 階 E メール oitajosairc@mist.ocn.ne.jp
例会場 ホテル日航大分オアシスタワー TEL 097-532-0611 FAX 097-532-8386 ホームページ http://oitajosairotaryclub.com

2023-2024

第 13 回例会

ロータリー財団月間

11月 8日

No.1539

◆本日のプログラム

12:30	点鐘
	国歌斉唱 「君が代」 ロータリーソング「奉仕の理想」
	ゲスト・ビジターの紹介 衛藤祐介 会長
	会長の時間 衛藤祐介 会長
	出席報告及び幹事報告 中山省悟 幹事
	ロータリー情報 R 情報担当委員
	委員会報告 各委員会
	スマイルボックス 親睦担当
13:00	地区補助金プロジェクトについて

◆今週のお祝い

●創立記念日	
	木下光一会員 (株)地域科学研究所 S54 年 11 月 14 日(44 年)
	工藤 隆会員 税理士法人大分共同会計 S57 年 11 月 18 日(41 年)
●配偶者誕生日	工藤 隆会員 シゲ子夫人 11 月 18 日 芳崎一郎会員 洋子夫人 11 月 25 日

●会員誕生日 廣瀬舜一会員 11 月 13 日

伊藤秀海会員 11 月 28 日

◆幹事報告

来週 11/1(水)は定款第 7 条第 1 節に基づき例会取り止めです。
次回は 11/8(水)12:30~通常例会です。お間違えないようご確認お願い致します。

◆ゲスト・ビジターの紹介(10 月 25 日)

●ゲスト 藤田尚久 様・伊藤憲吾 様
鷲野祐子 様・児玉正明 様
松本恵津子 様
●ビジター ナシ

◆今後の例会予定

●11月12日 野外家族例会
第 1 回大分城西 RC 自給自足大会
●11月15日 11/12(日)に例会変更
●11月22日 定款第 7 条第 1 節に基づき例会取り止め
●11月29日 未定
●12月6日 年次総会

●職業奉仕 3 分スピーチ

本日は、なし。
今後の予定(11/29)岩田会員 (12/6)伊東会員

◇スマイルボックス

伊東真知子 会員 (1 口)

先日 10 月 19 日になんとか 72 歳の誕生日をサン・セバスチャンで迎えることができました。帰宅致しましたら、きれいなお花が届いておりました。ありがとうございます。

中山省悟 会員 (1口)

本日は偶然伊藤憲吾さんと同じテーブルになり、小学校、中学校が同じ方で実家も近くの伊藤さんと久しぶりに会えて、とてもうれしい気持ちになりました。1口申し上げます。

会長の時間(10月25日) 会長 衛藤 祐介

「AALTO」

大分市にシネマ5bis という映画館があります。今週の上映は「AALTO」。北欧フィンランドの建築家アルヴァ・アアルト(1898～1976)のドキュメンタリー映画です。私も先日観に行ってきました。建築家でデザイナーのアルヴァ・アアルトの色褪せない名作の誕生を陰で支えたのは、最初の妻アイノでした。この映画はアルヴァと同じく建築家であった最初の妻アイノとの愛の物語を描いた作品です。



この映画を創った女性映画監督ヴィルピ・スターリは、「アアルトの生み出すものは、どこか官能的で感情に訴えるものであり、実際アアルトは“共感と官能を呼び覚ます建築家”と評されることがあります。彼の作り上げた空間は、知らず知らずの間に身体に刻まれている。それこそが、私がこの映画で描きたいと考えたことです。」と言っています。

アルヴァと人生を共にした二人の妻はどのようにして国際的なモダニズムの流れを索引していったのか。アルヴァと妻アイノそして二人目の妻エリッサ。彼らの「人間」を追った素晴らしい映画となっています。

アアルトと言えば、北欧家具の不朽の名作として知られる「スツール 60」があります。妻アイノが設立した家具販売会社「アルテック」はアアルトの家具を国際的なものにしました。



また、イッタラのアイコン的アイテムと言えるガラス花瓶「アアルトベース」。1881年にフィンランドのイッタラ村で設立されたガラス工場は、アアルト夫妻のモダニズム思想「デザインは誰の手にも届くものでなければならない」という考えに基づき陶磁器などにもラインナップを広げ、時代を超え長く使うことのできる美しく機能的なデザインを提供しつづけています。



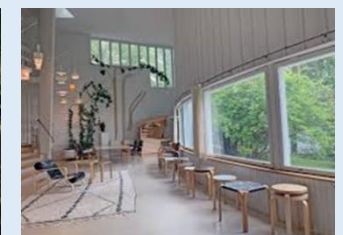
そして、建築。

当時中央ヨーロッパでは、ル・コルビジェらが CIAM(近代建築国際会議)を組織していましたが、彼らが推進していた最先端のモダニズム建築を、極北の地フィンランドで次々に実現している建築家がいると話題になり、若きアアルトは 30 代前半で一躍国際的な建築シーンの主役に躍り出ました。自然との調和が見事な「ルイ・カレ邸」は彼の代表的な住宅作品です。

アアルトに限らず、フィンランドのデザインの特徴は、日常的に使用できるものでありながら毎日を幸せにしてくれるデザインであるということです。ブランド名を前面に出すことで高級感を演出するわけではなく、毎日をちょっとだけ特別な日にしてくれる。天然素材を多用しているので、人間は自然と共に

生きているのだということを改めて感じさせてくれます。主張しすぎない。けれど、そばに置くだけで心が豊かになり、日常が彩られる。日本人の感性にもピタリと合うデザインなのです。

1949年に妻アイノは病で他界します。3年後にアルヴァはエリッサと再婚しますが、自宅のアイノ愛用のグランドピアノの上にはアイノの写真が飾られたままでした。エリッサはアイノの存在や信念を深く理解し、アルヴァのパートナーとしての役割を引き継いだのです。



会員増強親睦夜例会

「会長挨拶」

今日は、当クラブのことを知ってもらおうということでクラブ会員以外の方に参加していただいております。

ようこそ「大分城西ロータリークラブ」へお越しくださいました。

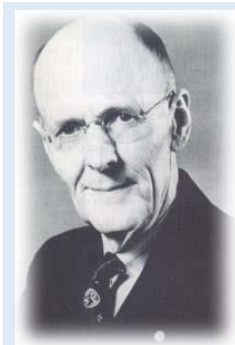
私は今年度会長を仰せつかっています衛藤祐介と申します。ロータリー歴は約8年、職業分類は建築設計です。

ロータリークラブというのは「親睦と奉仕」を目的とした団体であり、決して金持ちの道楽や特権団体ではありません。

私がロータリークラブに入って最初に驚いたことは、例会の初めに歌を歌うことでした。初めての経験で「なんだ、ここは！宗教団体か？」と戸惑いました。月初めの例会ではまず「君が代」を歌います。これは戦争中、ロータリーは発祥の地がアメリカであることから、ロータリーはアメリカのスパイではないかと嫌疑をかけられたり、フリーメーソンの組織だという疑いをかけられました。その疑いを晴らすために、国に対して忠誠を誓うことを証明する意味で、例会で国歌を歌い、それが習慣化したものです。君が代の後にはロータリーソングを歌います。

ロータリーは、シカゴで社交クラブとして発足しました。提唱者のポールハリスは奉仕に目覚めましたが、クラブの仲間は親睦のためのクラブだとして、ポールが奉仕の重要さを言えば言うほど反発が起き、クラブの中で、奉仕派と親睦派とは対立していきました。

その時の会長ドクター・ネフは、ハリー・ラグルスという5番目にクラブに入会した会員にこう伝えました。『次の例会でポールはまた奉仕の重要さを言うだろう、そしてクラブの雰囲気はきつと悪くなる。そこで、君は歌がうまい。そうなった時には、君が皆で歌を歌おうと、リードして欲しいと思うのだが』



と。案の定、例会は気まづくなりかけました、その時ラグルスが椅子の上に立ち上がり、大きな声で『皆で歌を歌おう』と言いました。これがロータリーの例会場で歌を歌う始まりだったといわれています。

話は変わりますが、よく「ロータリークラブとライオンズクラブは何が違うの」と聞かれます。どちらも親睦と奉仕を目的にした、国際的な集まりです。

基本的にロータリークラブの行動理念は“*I serve*”によるものであり行動基準に四つのテスト(Four-Way Test)が設けられています。

◆真実かどうか(Is it the truth?)

◆みんなに公平か(Is it fair to all concerned?)

◆好意と友情を深めるか(Will it build goodwill and better friendship?)

◆みんなのためになるかどうか(Will it be beneficial to all concerned?)

ライオンズクラブが奉仕活動を行う時には「我々は奉仕する(We Serve)」。すなわちクラブ全体でまとまって一つの事業に基金を拠出します。原則として個人個人では奉仕しません。

ロータリークラブには全員がまとまって行う奉仕活動も沢山あり、決してひけを取りませんが基本的には「会員一人一人が奉仕活動の単位」なのです。すなわち、「私は奉仕する(I Serve)」 「自己の責任と判断において、自分の職業を通して、はたまた社会に、世界に奉仕しよう」…との考え方が基本となっています。

では、なぜ奉仕をするのでしょうか？

「人に奉仕するのは、この地球に住まわせて貰う為の家賃」とであると、黒人女性で初のアメリカ下院議員になったシャーリー・チザムの言葉にあります。私たちが、仕事が出来て、お金を稼いで、生活できるのは地球に住まわせてもらっているから、その地球に家賃を払う＝奉仕する。ということなんです。

そして、人のために世話をし、奉仕することが、その経験を通じて誰かの人生だけでなく、自分の人生を豊かにできるのです。

ロータリークラブには多くの有名人も参加しています。ウォルト・ディズニー、KFC のカーネル・サンダー、エジソン、ライト兄弟、アームストロング船長、ルーズベルト、松下幸之助等。

ロータリークラブでは「ポリオ撲滅活動」を永年やってきています。ポリオというのは昔日本では「小児麻痺」と言われていました。私の子供のころは周りに小児麻痺の子供を普通に見かけていました。小学生のころ、甘いワクチンを飲まれた記憶もある方もおられると思います。ポリオは日本では撲滅されました。世界ではロータリークラブの活動もあり、今ではポリオが発生しているのはアフガニスタンとパキスタンの2か国のみとなっています。しかし、今ポリオ撲滅活動をやめてしまえば、瞬間にポリオが復活蔓延してしまうのです。昨年は、ニューヨークとロンドンの下水からポリオ菌が発見されています。この活動を最後まで続けることが必要です。

城西ロータリークラブでは、3年前からケニアの首都ナイロビで健康診断の普及を進めています。実際に現地に行き、貴重な体験もしてきました。また現在ウクライナに医薬品や車いすを送る活動にも着手しています。国内では「子どもたちに伝えたい、ふるさとの良さ、日本のすばらしさ」という活動も継続しています。

そして、奉仕活動を行う以上に大切にしていることが会

員同士の親睦です。異業種の方と普段は面と向かって話す機会もない人と、上下関係無しに友人として関わり合える醍醐味はロータリークラブならではの醍醐味だと思います。今日はクラブ会員と酒を酌み交わし、少しでもロータリークラブのことをご理解いただけましたら幸いです。どうぞ、ごゆっくりお過ごしください。

